明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三卷

第六號

明治三十八年六月二日發行

いちご會（渚）……一
婚後半年……五
●男女の不心得 ●女學生と妻 ●妻の教育 ●煩悶
●家庭の讀物 ●互の忠告 ●女は嫁すべきもの
愛になれる夫婦關係……九
我が花園（モーア作）……一二
菜食の話（綠亭主人）……一三
菜食料理のかずく……一五
野菜と果實……一六
カアさんのお話材料……一八
二葉園藝（エデンの花守）……一九
●薔薇の話 ●朝顏の牡丹咲 ●花の友へ
養鷄小話……二三
偶感（渚）……二四
家族の數……二八
舊式道德の犧牲（筆ついで）……三一

由分社

東京市芝區新堀町三十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子用繪葉書

新式

之を日光に透す時は或は月影を水に宿し或は山の端に露を生じ又は雨後の草に七色の紅を現はすと東京朝日は評し。技術の進歩驚くべしと歐米人を感嘆せしめたる透影葉書の第三輯は世に出でたり。如何に其奇を弄せるか乘て高評を給へかし。◎六枚一組郵税共五十錢

東京市日本橋區東中通　文祿堂發行

◎繪葉書の栞	美本一冊郵税共二十錢
◎紅意匠	六枚一組郵税共三十錢
◎東京名所	六枚一組郵税共六十錢
◎兩面繪葉書	六枚一組郵税共四十錢
◎新七福神	七枚一組郵税共五十錢
◎水彩繪葉書	六枚一組郵税共三十錢

近日發行仕候

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回(二日)發行とす。

一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割増の事。

一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。

一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年五月廿九日印刷
明治三十八年六月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京市芝區新堀町三十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕便 瓦斯の煮燒 德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮燒用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

●三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

●瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく德用便利也

●工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

●臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尚各種式新器具は當社構內陳列所又は銀座陳列所さへ陳列縱覽に供居候御立寄御一覽被下度候

東京神田錦町 東京瓦斯株式會社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此清心丹は全國到る所にあり

ニッケル罐入にてポツケト用に適す

懷中要藥 清心丹 ニッケル罐入 定價拾五錢

本舖 東京市日本橋區元大坂町八番地 高木與兵衛製

旅行又は平常携帯に便利也

明治の家庭

毎月一回一日發行　定價一冊前金六錢　六冊郵税共卅三錢　十二冊六十錢

▲六月一日第一號發行

目次

●此の雜誌の覺悟……發刊の辭
●婦人方は新聞の論説をお讀みなさい……記者
●お婆さん子は三百文安い……南摩錦
●こわれぬ玩具……
●清ちやんの危篤とその父の禁酒……梓柳子
●奥様の遊戯……
●子供の育て方 ▲厭遊びをする子供 ▲輕卒の女の子 ▲あいちやんの水鼻をとる道具……
●家の整理 ▲主人の癇癪を直す仕方 ▲子供の靴 ▲經濟の面白は問題二つ……
●泣く子のすかし方……東洋幼稚園長談
●剛情の子供えのお伽噺……芝山
●新婚の寫眞について……中津義郎
●洋服の洗濯法……瀧浦潭
●絹物を洗ふ石鹼と木綿物を洗ふ石鹼……
●福神漬の仕方、辨當料理、西洋菓子……佐藤みち子
●母樣下さい帳……

發行所　東京牛込區納戸町六番地　明治の家庭社
發賣所　東京日本橋區本石町三丁目　寶文館
電話本局二千三百十三番

改良ロンテニス 二重枠ラケット一組

一號	品	一二、五〇〇
二號	品	一一、〇〇〇
三號	品	八、八〇〇
四號	品	七、四〇〇
五號	品	六、七〇〇
六號	品	五、七〇〇
七號	小學用	四、七〇〇
八號	婦人用	六、〇〇〇
九號	婦人用	七、〇〇〇

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五〇
二號	一張五間半	二、二五〇
三號	一張六間	二、四五〇
四號	一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町五

安藤商店

電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

資本金百萬圓

最も精確且嶄新
なる方法により
最も簡易且懇切
なる取扱をなす

資本金參拾萬圓

東京日本橋通二丁目
日宗火災保險株式會社
(電話本局二一一〇番)

東京日本橋通二丁目
日宗生命保險株式會社
(電話本局一〇三〇番)

保險案内御入用の方へは御申越次第進呈す

家庭雜誌
第三卷第六號

いちご會

『まあ何て美しいのでせう。』
妻の聲が裏の方から聞えて居る。
自分は先程家族を連れて教會より歸宅し、それからは例に依て書齋へは入らず、東向の茶の間で、二三種の新聞紙を散見して居るのである。暫時すると、妻は慌しく枝折戸から驅けて來て、
『一寸貴郎御覽遊ばせ。可愛いいちやありませんか。』
『ふむ、覆盆子だね。どうしたの？』
『お隣の奥樣に貰つたのですよ。西洋覆盆子なら珍らしくありませんけれど、これは本當の日本のですもの。山覆盆子とかいつてね。』と、講釋を初めて居る所へ、丁度戻つて來たのは小夜子と純とで。
『あら、母樣、どうなすつたの。一枝欲しい事よ。奇麗だわねえっ』と、自分の顔を覗き込む。弟も負けない氣になつて、
『僕にも頂戴よ。瓶に活けて置くのですからさア。母樣！』
斯う云ふ騷ぎに何事が始まつたかとも思つたのであらう。勝手に働いて居た梅が、そつと障子の隙間から内の樣子を窺つた。
『梅さん、其處に居るかね。』
『は、はい。』
『一寸來なさい。そして玄關の銀林さんも呼んで來るのだよ。』
斯くして急に一家都合六名の會員を一所に集めやうとした自分は、別に深い考があつての事では勿論ない。只隣家の細君の手に依て贈られた、この清楚愛すべき珍客を取圍み一家族が相寄つて話合つたならば、或は安息日の時間を有益に且つ多趣味に費す事が出來

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るかも知れないと云ふ、ほんの咄嗟の間の考案に外ならぬ。愈々自分共に六名の會衆が列席すると、自分はまづ自選で以て會長の位置に立ち、改めてこの覆盆子に對する趣向を發表した。無論會衆には殊の外これが氣に入つたらしく、『贊成』と云ふ呼聲が諸方に起り、中には拍手などを以て迎へる者さへあつたッけが、最後に、

『先生。』と、眞面目になつて呼ぶのは銀林である。

『先生ぢやない、議長と呼んだぜ。』と、純は横合から注意した。

『え丶本員は「文明と覆盆子と」題して、一場の演説が致したいのです。』

『成程奇想天外的のものだねえ、青山學院三年生のお前にしては……』

『いや、實は試みたいのですが、それは何れ大學院卒業後に譲りまして、本日は只一言申上げます。』

『ひや、ひや。』と純は笑乍ら。

『本員が考へますに、此樣な覆盆子など云ふ物は、遠く野蠻時代にあつては多くの人々に足の尖で蹈付けられて居たでせう。然るに、文明の今日では、態々滊車賃を投じて深山幽谷に迄分入り、僅かに一枝を得て歸ると、鬼の首、いや高價なダイヤモンドでも搜して來たやうに騒ぎ立てます。實に不思議な現象ではありませんか。私は此證據を何處迄も引いて行き、今にこの覆盆子一箇の價値が一億萬圓にもなる時代が來るだらうと云ふ事を豫言して降壇致します。』

（二）

彼は暫時喝采の内に包まれて居た。それは多少意餘つて語足らずの傾がないでもないが、兎に角意外な奇説を吐くものであると思ひ〳〵、自分は其次に妻の名を指定した。

『妾？さうですねえ。』と、支那燒の小さな花瓶に、熟して落ちさうになつた覆盆子の枝を挿し込んで、

『この覆盆子は山國から來たのではないさうですよ。妾も聞いて驚いたの。源氏山から二三丁行くと宮内省の獵犬舍が御座いませう。ほら、代々木八幡へ行く道の左側ねえ。』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『ヤッ、彼樣な所にですか。』と、銀林は事の意外に駭いたらしい。

『さうなのよ。お隣りのがねえ。取つて入らしつたの、黄覆盆子なんぞは澤山な事だとさ。だからねえ。』と、自分の方へ向き直り、

『妾の思付きは家内中が揃つて、散歩がてらに出掛けたいと申すのです。眞實に嬉しいものよ。此樣なに眞赤なのが笹の葉か何かの間に、ちらくと見えますとねえ……』

『母樣、早く連れて行つて下さいなねえ。』と小夜子は女の子だけに。

『お待ちなさい。さう性急でもいけないよ。これから梅さんの話を聞かうぢやないか。』

と、自分は靜かに構えて梅を見る。

『根から妾には解りまへんけど、覆盆子は小さい時から好きどしたんや。一つ一つ麥藁の籠の中へ入れて、遊んだりしましてなあ。』

『矢張お梅さんの方にもあるのだね。』

『澤山あります。妾の近所のお婆樣が、五色山と云ふ山へ覆盆子取りに行つて毒蛇に魅られて、二日目に死んでしまひました。』

『まあ厭だ！』

『成程、それは併し蛇覆盆子を取つたのだらう。田舍にはよく其樣な風の話があるものだ。では小夜子さん、お前の番が來ましたよ。』

『あら、……母樣どうしませう。』

『母樣と相談は卑怯です。お梅樣でさへお話したではありませんか、お孃樣。』と、銀林は躍起となつて責付けて居たが、純は何時の間にか席を外して居なかつた。

『ぢや笑つちや厭やよ。宜い事？』

『歌でも出來ましたか。』と、銀林が振返る。

『いや、其樣な氣障な事は敎へてない積りだが、小夜子、前置が大分長かつたよ。』

『え丶、あのう、此樣な美しい覆盆子を澤山取つて來てね。これが原宿の土産ですつて、神田の春生樣にあげたい事よ。』と、聲を細くして、覆盆子のやうに顏を

染めて居る。併し、自分は嬉しかつた。實際に感じもせぬ事を文字に綴つて、それを歌だとか詩だとか、噺立てゝ居る當今の令孃仲間の虚飾心から離れ、かくも赤裸々に自分の愛人の名を呼ぶやうになつたのは、少くとも自分の理想的女性に一歩近付いた兆候で、日本の女子にしては全く稀有なる現象と云はねばならぬ。序乍ら小夜子は今年丁度十七になつたのである。自分は彼女の方を眺めて、

『よく正直にさう云つた！』と賞めて居る處へ、折良く這入つて來たのは純である。

『おゝ純さん。何處へ默つて行つてたのかい？』

『父様、僕のはこれです。』と、云ひ〳〵差出したのをよく見ると、美事な二葉の繪葉書である。何れも覆盆子を中心にして、別に自分の意匠を加へたものだが、自分の鑑定では小籠の添えてある方が優れて居るやうに思はれた。

『純様、奇麗に出來たのねえ。』

『まあ、坊様が。』などゝ云ふ嘆美の聲が口々に起つて、純はもう非常な天狗になつて了つた。尤も彼に畵才のある事は、自分も疾くから見抜いて居たのではあつたけれど……

『好い思付きだ。感心々々。だが、此覆盆子を英語では何と云つたか、覺えて居るかい？』

『えゝ、父様に教はりました。ストラウベリイ。』

『アクセントは？』

『初めの方に。』

純は益得意である。こゝで會も終りを告げたから、早速散會を命じやうとすると、

『おつと、先生は何もお話して下さらないのですか。』

『本當だわ。他人ばかし困らせて置いてねえ。』

『それは私だつて會員の義務を知らん事はない。やる積りさ。』

『ちや早くおやりなさいな。』

『いや今はやれないが、今晩此事を文章に書いて、活字にして會員諸君の御目に掛けやうと巧に急場を逃れやうとしたが、終に二三の反對者を出し、揚句の果は、覆盆子取りに家族一同を引連れるべき責任を擔はされて了つた。意外！これが今日の集會の産んだ結果であらうとは！

毎年此頃になると、原宿近邊は源氏山の覆盆子取りで大騒ぎをする。一日余は此邊を散策して、いとも床しき一家族が、手籠さげて覆盆子取りに行くのに邂逅した。即ち其夜の空想の結果、終に此稿はなつたのである。（清山）

婚後半年（二）

松の舎

▲男女の不心得。

予は前號所載第一項「妻定め」と題する内に、結婚は相信愛せし者に限るのであるが、世の青年男女の中には、往々、不心得なものがあつて、其の父兄親戚たる者をして、嘗て相愛せる男女の結婚を一種忌むべき理由の下に、否認、排斥せしむるに至る旨慨歎したのであつた。

處が、去る五月一日の萬朝報は「男女學生心中」と題して、ラブから起つた一大悲惨の出來事を傳へて居るのである。要は、

東京一醫學校生某が一女學生と互にラブせしが、女學生なる者の國元より、突然婚儀を報じ、歸國を促し來りしため、狼狽、兩人策盡き、終に大森、八幡濱旅館に投宿し、モルヒ子を服して死を計れり

との事であつた。

かゝる事實は今に始めぬこと幾度か新聞紙に依つて報導せられたことであるし、又實際にしても、隨分多い出來事である。

彼等の相愛せしことは必ずしも惡くはないが何故彼等はモット愼重の態度を取らなかつたか。

夫婦となつて理想の家庭が作りたくば、何故、彼等は先づ、現在己が學業に勉め、一日も早く互に業を卒へ、公然父兄親戚に計つて、互の希望を遂げやうとはせざりしか。

思ふに男子に紳士として立つ資格充實し、女子に貴女としての價値成れば、父兄親族にして、甚しき頑固無識でない限り、何ぞ彼等の申し出を拒絶しやう、最愛の子弟が希望は必ず容れらるべきである。

既に相互間に確實な愛が成立したなら、目出度い結合を立派に成立させて、一生豫期する愉快な月日を見る樣、共に勉むるが義務であらう。只瞬間の誘惑に思ひも寄らぬ惨事を演じ、有望の身を芥の中に投げて亡すに至つては、實に愚の極と云はねばならぬ。

畢竟するに、世の青年男女の多くは未た確たる定見と決心とを持つて居らぬ。彼等は彼等の結婚に關聯し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、風俗改良並びに思想の革新上に正に一大責任を有して居るので、彼等が愛に對する不見識と不眞面目とは痛く其等の發展を阻害するものである。

理想の夫に嫁したいとか、理想の妻を娶りたいとかいふ新しい、高尚な希望ある者が、何故其目出度い成功を收める爲に今少し眞面目で、着實で、熱心で、用意深く、そして、决心を固くしないのであらうか。

▲女學生と妻。

予の妻は女學生であつた。東京の某女學校を卒へ、後、英和女學校に通つたのである。

世間に妻としての女學生を攻擊する者がある。女學生中には前項記載したやうな輕薄なる汚行者が間々あるがため、潔白なる淑女までが、世に一種の眼を以て見らるゝのは氣の毒なことゝ思ふ。

妻として女學生を排斥、非難する者の中、やれお菜の作り方が下手だ、やれ漬物の鹽が辛過る、いや甘すぎるといひ、又は着物の仕立方が惡いとか、お世辭が惡いとか叫ぶ者がある、餘りに些々たる、そして同情の缺けた見方ではあるまいか。妻は料理人でないと同時に亦裁縫師でもない。妻の作らへた漬物が自分の嗜好に適せねば、自分で一つ試みて見ればよい。漬物の上手下手や裁縫の上手下手で妻の價値を判定しやうと云ふのは、過度に女性の眞價を蔑視したものであるかゝる輩は、畢竟、妻を以て家の道具の一ツと心得る者、生活とは甘い物を食ひ、美しい衣服を纏ひ、諂諛以て富者權者の愛顧を求むるものと、此樣な考へを持つて居る、甚た憐な人達に過ぎぬであらう。送生の同伴者としては誠の信と溢るゝ愛とがあり、人生を解釋することがよりよく出來たなら、それこそ新家庭に歡迎するに大なる資格と云ふに足るではないか。

▲妻の教育。

結婚前相當の教育があり乍ら、一朝嫁してしまふと女子といふものは、兎角家事向に其教育の利用が出來ぬもの。此點は夫たる者がよく補佐し、あくまで利用の出來る樣に便宜を與へねばならぬと思ふ。

又、結婚後といへ、夫は妻の教育に留意し、各其長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所に從ひ、一寸でも天賦の才能を發揮せしむる樣勉めねばならぬ。若し出來るならば、ある時間を割いて相當の學校に學ぶもよろしく、假令、通學が六ケ敷いとならば、家庭に在つて孜々實用と靈の學問を研鑽するもよろしいのである。

今日迄の習慣では妻となつたら、子供を大きくすればよい、おしめの香をかゞして置けばよい、酒の酌が上手ならよい、位の卑い考であつた。

あゝ、果して、女子は人の妻となり、子を生むためにのみ此世に生れ出でたものであらうか。

世の夫たり妻たる者、宜しく反省一番、理想を高きに置き、向上の精神を養ひ、かくて各自天賦の才能を飽くまで發展せしめる事に力めねばならぬ。

▲煩悶

己が地位の卑きがため、財政の甚だ豐かならざるため、己が希望、慾望の達せざるため、輕薄のバニテイーの滿足せしめられざるため、人は往々にして悲痛、慨歎、煩悶、終に其身を亡すに至るものである。

予は嘗て此種の煩悶に沈淪せし折、偶々蘆花子が「五分時の夢」を讀んで、大に悟るところがあつた。又結婚後の一夕、ある新聞紙を手にした時、某氏が駿臺雜話所載の、

あさかほの花一時も千歳ふる
　松にかはらぬ心ともがな

なる一和歌を引いての一論文があつた。

其所論に依つても予は少からず悟ることが出來た、予は此婚後半年の一所感として、自分丈に是非其書いて置かねばならぬ。

▲家庭の讀物

家庭には是非教養及娯樂の讀物が豐富でなくてはならず、其一ツとして、新聞、雜誌等が有要なことは敢て贅言を待たぬことである。

『家庭雜誌』でも讀む人々の中には到底ないことだが世には間々新聞、雜誌等は害あつて益がない、とて、一概に輕薄な記載物とのみ思考し、却て陳腐な古書等を貴ぶ輩が居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人は時事に暗いやうではいかぬ。世事に通じねばならぬ。時事に關する世論を辨へねばならぬ以上、是非新聞、雜誌等を讀まねばならぬ。

今や我國新聞雜誌等の業、大に進歩して見るべきものが多くなつた、又、便利の世の中ゆゑ、外國發刊のものでも、隨分安價に得らるゝのだ。兎に角家庭には成るべく多くの新聞と雜誌とを讀物とする必要があるのである。

▲互の忠告。

人は親しみ狎るゝに從ひ、自己の缺點を示し勝のものである。

既に相熟知せる間といへ、結婚の後は細いところまで目のとゞくもの。それで、何なりと、夫に紳士として恥づべきこと、又、妻に貴女としてふさはしからぬことを見出したら、互に相忠告し、相諫め、以て互の行なひを改め、德を進むべきである。

只かゝる場合に、我意を通さんとして、淺ましい言ひ爭ひに陷るは忌むべきことである。

▲女は嫁すべきもの？

女は嫁すべきもの？などいふ問題があるが、予は今敢て此を論ぜんとするものでない。併し、一寸一言して見たいことがある。

我邦にも外國にもよくあることだが、オールドミスといふものは、兎角人間らしくないもので、根性曲り意地惡しく若い婦人を罵り、わけもなきに、嫁につきかゝるなど、何事もひがみ目もて見がちのもので、此を彼の藹々たる家庭に在つて夫と親み、可愛ゆい子供達と無邪氣に遊ぶ妻の平常に比べると、いはゞ前者は鬼の權化とも思はるゝのである。

實際を見て考るに、男は女を得、女は男を得て始めて融和し、初めて兩者が人間らしくなるものらしい。自然の大道として女は男に嫁すべきもので、又何の解明を要せず、其間に疑ひを挾む餘地がない。

孤立せる婦人は恰も枝も葉もなき一本の枯木の如きもの。

▲妻の呼び方

自分は此點には失敗しないが、近頃結婚した予の知

己の一人につき面白い話がある。

一日予は新婚早々の彼を訪問すると、彼は其新妻に呼んで、二階の欄から、

『オイ、君、酒を持つて來い！』

と命じた。

ところで此男、近頃、家庭記者として、某新聞社に入つたとのことー

又、妻の呼方に就いて、或人は斯う云ふ事を云つて居る。』

せめて、自分の妻丈は呼び捨てにさせて貰たい。』

と。成程西洋などでは、自分の妻を『さん』附に呼ぶ樣なのはないらしい。これは、可愛さと親密さとを。示した唯一の證據で、『さん』があると、何となく二人の間がよそ〳〵しくなる。と云ふ說も全く價値がないではない。併し乍ら『愛』に加ふるに『敬』と云ふ分子が含まれる夫婦間に於ては、此『さん』が是非共必要になつて來はすまいかと、自分は斯う常に思つて居るのである。

愛になれる夫婦關係

てき生

今の世にあつては戀愛の自由と云ふものは殆んどこれなく、從てその夫婦關係もこれは眞の夫婦關係と呼ばれべきものではなく、そして、それが到底現代社會の組織と意識とを根本的に更めない限りは達し得らるべきものではない――これは慥かにかすかなりとは云へ、無意識に犯し汚されつゝある憐むべき兩性の爲めの現代批判の眞理のさゝやきである。生を好み死を惡むは人の情。而も、何等崇高なる宗教的感情よりしてゝはなく、尙ほ且つ死するを嬉しとするやうな情緒は、人の神性と共に又その一面たる人性の痛切なる告白ではなからふか。人は愛し愛さるべく生れ來つたもの、この情緒と人生とは何等かそこに甚深なる關係がなければならぬ。だが、今はその考察は止すことゝして、社會の組織と意識とが更められ、そして、玆に戀愛の自由が得られ、夫婦關係が新なる意味を以て成り立たれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た、その乃ち新なる社會に於て、これ等のものが果して如何樣に解釋せられて然るべきや。私の論じ樣と思ふのはそれである。然し、これが決して遠い遠い未來の事のみの考へとはせらるべきものではなく、今の世とても、愛になれる夫婦關係は多少なりともあり得べからざることでないからには、とりもなほさず、この論は又それに對する私の見解とも見做されて差支へないのである。

　愛になれる夫婦——若しその一旦愛した情緒が、終生決して變らぬものとすれば、さすれば、そは別に何等論ずべき所はない。だが、多くの人の情は左樣に何時も固定して居らぬと云ふのが、少くとも普通一般の事實であつて見れば、所謂尊き戀愛の自由と云ふものも、茲に一部の人の非難するが如くに、放逸混亂統制なき、寧ろその弊の恐るべき狀態を現じはすまいか、一度び愛になれる夫婦が、暫くしてその愛の冷却すると共に、更に愛によれりとして二度び三度び他に自由に夫婦の關係を更へ結ぶとしたならば、誠にその結果はドンナものであらふ。制抑果して非歟。自由果して善歟。まどふべきと云はなければならぬ。私の議論の出發點は實に茲からである。

　然し、世の戀愛自由論者は何と云ふか知らぬが、私を以てすれば、上來の非難は極めて間違つた考であると云はねばならぬ。これはわが所謂自由の本義を誤つて居るから起る誤謬りである。自由と云ふは絕對的に放逸と異つて居るもので、制抑が他の或物によつて支配されて居るやうに、自由は自由其物に自縛せられて居るものである。已に自由の愛になれる夫婦は自らそのカテゴリー(範圍)以外に於て最早自由の權利を放棄したものと云はねばならぬ。これは崇高なる自由の命令である。自由の道念である。これを犯すものは最早人格の破滅である。されば、總ての自由の時代は最も崇高なる道念の時代と云はねばならぬ。現代の夫婦間に於て許されつゝある所の諸點も、この時に當りて。その或は罪惡と認めらるゝことがあるとしても、決してその感想の向下する樣なことはあり得べきでない。神

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の國は最も自由なる國ではないか。誰かその世、その時を以て放逸混亂の時とはする。

善哉、然らば、一旦愛になれる夫婦は、已にそのカテゴリー內に沒入して互にその自由を失ひ、これを脫するは人格の破滅であるとして、而も、時に情冷へ心動くあるは多數に免がるべからざることではあるまいか。然して、それをも尙は抑壓するは至當の理と云はるべき事であらふか。――私はそれは僞らざる本然の性に見て至當でないと思ふ。夫婦とは靈と共に又肉とも、兩性の融合である、單なる靈性の交りは夫婦ではないと共に、靈性の融合なき夫婦は互に姦淫の罪を犯して居るのである。されば、愛情の冷却し、又愛情の更に他の異性に向ふありとして、尙ほその夫婦の關係を繼續して居ると云ふは、これ意識しつゝ互に姦淫を行ふて居るのである。罪のこれより大なるはない。そして、此の如きは決してかのカテゴリー以外のことではなく、自由の行動は自由に殘されてあるとしなければならぬ。私は此の如き場合に於ける離別は、互に罪よりのがるゝ至當の處置と認むるのである。(只だ、性を超脫せる他に對しての愛は、何等夫婦の愛情に影響すべきでないことは當に知らるべきである。)然し、これが他に夫婦の關係の如きを更にするに於ては、戀愛の自由は決してその口實となり得べきでないと云ふのである。固よりその他の口實に於てをや。愛よりなれる夫婦の愛は完くして純なるべきである。さるに、第二第三の夫婦關係に於て、その愛の完くして純なりとするは、最初の場合の情冷へ心動きし際に於て、その不可能たると同一の事理であらう。特に、人は常に憧憬すると共に回想するものである。過去の戀々を全く忘却し能はざるは、尙は現在の悶々を全く掃去し能はざるが如くであるとしたならば、單にこの點よりのみしても、その完くして純なる夫婦の愛情は誠實の心にこれを求むることは出來ないのである。況んや、自由の命令はこれを罪惡と宣告するに於てをや。

物は總て皆な感應の性を有して居る。互に相吸引することの益々急に且つ強ければ、その力又益々加ふる

ことは引力の理の吾々に明にする所ではないか。異性の情愛も亦當にこの樣である。至情の夫婦は互に相愛するによりて益々その愛を加ふべくして、その情洽へ心動くと云ふも、要するに、こは單にその人の思卑く、念高らざるを以ての故である。愛は實に愛を呼び、又潔めをなすものである。誠の愛は實に永久の力である、と謂はなげればならぬ。

●米國の青年　第一に感化する事は彼等が己の家庭と云ふことに就て誠に温かな思想を有して居ることである、青年は何れも日曜の午後には必ず己の父や母、若くは兄弟姉妹などへ手紙を書くと云ふ習慣である。彼等が母や兄弟姉妹などの事を話す時は實に熱心なものである。此世界の中に自分の母程豪いものはないと云ふ考を何れも抱いて居るやうである。彼等は全體婦人に對して非常なる尊敬を以て居るのは、全く總ての婦人に對するに自分の母若くは自分の姉妹に對すると同樣の考を持つて居るからである。私の居つた學校では何れも學校の食堂で食事をするのであるが、誰でも自分の友人を食事時には食堂に案内することが出來るのである。處が私共の同級生で度々自分の母を食堂に連れて來る人を見受けた。斯樣な時には友人は何れも珍客として其母を待遇するので、傍から見て居て私は何時も之れを羨ましい事に考へて居た。一年中でサンクスギヴィングやクリスマスには學校の生徒は故郷に歸つて家族と共に愉快なる祭日を祝するのは常である。私は米國青年の道德と云ふものは多く此家庭といふ觀念に由つて維持されて居るものと考へる。

●我が花園　（一一）

モーア作

（一）

千草いろある我そのを、
　ひとり愛でしは既に昨日。
君と二人がみるけふは、
　なほさらにこそ美しけれ。
樂しき夏の朝ぼらけ、
　花のあたりを飛ぶ蜂の。
ひまなき聲に醒まされて、
　破れし夢のおもしろさ。

（二）

エデンの鹿子は見よあれに、
　覆盆子食みつゝ草はみつゝ。
初は恐れて逃げ去らん、
　馴さば途に君が前に。
暑さを避けて庭にゆきし、
　草の臥床はあれよ行きて。
眠れる眼蓋にさはり見よ、
　なほその脚を撫でゝ見よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

菜食の話

祿亭主人

菜食は古來宗敎上の習慣や地理的の必要から多くの人によつて行はれたもので、之に色々の理論をつけ、一箇の主義として主張するに至つたのは比較的近世の事である。此主義の內容は先日の直言紙上で枯川君が大略紹介せられ、余も亦其後之に對する考を述べて置いたが、玆に之を約言すれば、我々が希望する人類同胞と共同生活の理想を動物界にまで及ぼし、動物を殺戮して其肉を食ふは宜しくないと言ふ事と、又一方に於て、人間の健康は菜食にのみよつて保たれると言ふ事である。之は理想として少しも反對すべき理由はないが、今日之を實行するに就ては、種々の困難が生じて來ぬでもない。先づ其內の重なるものを擧ぐれば、菜食は肉食に較べて旨くないと言ふ事と、菜食は滋養分に乏しく、且つ消化し難いと言ふ事である。けれども、これは永遠に此主義の進步を妨ぐる程の理由でなく、少しく注意すれば容易く取除けらるゝものであらう。

第一旨い旨くないと言ふ主觀的の感情は重に習慣と敎育によつて生ずる差別であつて、或點までは之を變更する事が出來る。昔から日本人は多く菜食者であつて獸類の肉を味ふに慣れたものではなかつた。今日でも田舍へ行けば四つ足のものを殺して食ふを快しとせず、大多數は菜食によつて生活するものである。唯都會で暮す人や西洋人の風にかぶれた少數の人が、肉食則ち美食と言ふ樣な感を起すに至つたのである。

人の嗜好を變へると云ふ事も其道を以てすれば隨分出來ない事はない。西洋の酒癖を治す病院では、患者の性質に應じ、或ものは直ちに禁酒せしめ、或者は漸次之を減量する。又酒類の代りとしては、蕃椒、肉エキス、茶、ココア、炭酸水、モルト液などを與へる、これは患者の爲幾分か苦痛であるが、長き月日の後には全く之を根治する事が出來るのである。肉食に對する口腹の慾を廢するは、酒やモルヒ子の中毒を治療するよりは甚だ容易な事で、之を一時に斷せずして、之

に代るべき菜食を發見しつゝ、徐々に之を行ふたらば、肉食が旨いと言ふ感じは全く無くなるであらう。

次に菜食は滋養分に乏しく、且つ肉食よりも消化し難いと言ふの事實は、今日の所、幾分か事實であつて、全然之を非認すべきではない。そこで我々が菜食主義を行はんとするには、其材料を如何に選ぶべきか、且つ如何なる料理法によるべきかと言ふ實際問題に遭遇するのである。

單純な菜食には滋養分が乏しいと言はるゝの理由は、之に含む窒素の量が少いと言ふ事である。然るに一方には亦窒素の供給は必ずしも食物にのみ求むべきものでないと言ふ説がある。サー・ハンフリ・デーヴィの計算によれば、人間が肺と皮膚から吸收する窒素は一晝夜に二二四六グレーンの多量に上ると言ふ、此窒素の幾分が體内に於ける水素、酸素、炭素、硫黄と化合して、新たに蛋白質を形成すると言ふは甚だ出來得べき事である。現に菜食實行者の筋力が肉食者のそれに劣らず、草食獸の肉に含有する蛋白質の量が肉食獸のものと殆んど同樣である事實に考へても、動物の養分は必しも口から計り這入るものでない事がわかる。左れば、人はパンのみにて生きるものに非ずとは、啻に宗教的の警句でなく、生理的にも亦證據立てられ、仙人が氣を呑んで暮すと言ふ事も、强ち魔術的の傳説として嘲笑せられぬ樣に成る事と思ふ。

余は未だ感情の上から肉食を以て汚れたものであるとは信せぬ。又道義上一つの罪惡であるとまでは言はぬ。隨つて今日直ちに菜食の實行をすべての人に勸めんとするものではない。併ながら近年我國人の間に勢を逞ふせる、肉食萬能主義の時代は遠からず過ぎ去り、其代りとして菜食の方面には大に開拓せらるべき餘地が存するであらう。而して、此菜食を研究するの道は主として我々料理に志すものゝ實驗によらねばならぬ事であつて、余は之を世の家庭者に勸め折々その庖厨に試みられん事を望むものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

菜食料理のかず〱

●ヴエヂテブル・スープ

〔材料〕豌豆四合　玉葱一箇　バタ二食匙
萵苣、菠薐菜、セルリ、人參等　細かく刻みて大凡二合

右の内豌豆を熱湯に投じて軟かくなるまで煮、裏漉にかけて置き、別に葱をきざみてバタにて炙り、之へ他の野菜を加へて少しく色の變るまでいため、一升二合計りの水をそゝぎて二時間程文火にて沸かし、其滓を取り去りて豌豆のつぶしたものを加へ、鹽、胡椒、丁子或はナットメッグ等の藥味にて味をつける。

●マカロニとトマト

〔材料〕マカロニ四オンス　蕃茄半斤　乾酪一オンス
バタ二食匙　玉葱小一箇　鹽、胡椒

マカロニを熱湯に投じ烈しき火にかけて軟かくなるまで煮、八分位の長さにきり、別に葱を刻みてバタにて炙り、蕃茄を薄く片ぎて、チースの碎きたるものと共に、總ての材料を交る〲フデンの皿へ入れ、鹽と胡椒にて味をつけ、三十分間許り弱きオヴンに入れて燒く。但しトマトは罐詰にてもよし。

●ヴエヂテブル・パイ

〔材料〕玉葱一箇　人參一本　蕪菁一箇　セルリ一株
豌豆一合　ポテト三箇　セーゴ半オンス　バタ一大匙

總ての野菜を成るべく少しの水にて煮、鹽、胡椒、バタにて味をつけ、皿に入れ、パイの皮を蓋して燒く。

此パイへマシルーム、松蕈、椎蕈などを加ふれば更に味よし。

●ヴエヂテブル・グース

〔材料〕麵麭屑半斤　玉葱一箇　バタ一オンス　パースリ少々　鷄卵二箇　芋、人參、豌豆、セルリ等の野菜數種を取りまぜ大凡一斤　鹽、胡椒

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

・右の内、パン屑を冷水に浸し、よく水氣を絞りて碎き、別に玉葱をバタにて炙り、又他の野菜を湯煮して之と混和し、鷄卵を割り込み、鹽と藥味にて味をつけ、プデンの皿に入れて燒く。

●ヴェヂテブル・カレー

〔材料〕カレー粉一大匙　バタ二大匙　牛乳五合　葱、キャベツ、カウリフラワ、菠薐菜、萵菜、豌豆、栗豆、人參、芋等を取り交せ五合計り

カレー粉をバタにて炙り、他の野菜を細かく刻みて之に加へ、少しく茶色になるまでいため、牛乳を加へて文火の上にかけ、野菜の軟かくなるまで煮、麥粉のシクニングを加へ、鹽加減を見て、溫かき飯に添へて出す。但し、此牛乳は至極新鮮なるものを要す。

以上は太平洋食堂に於ける料理講習會と自分の庖厨とに於て、近頃余が實驗したるもの。（綠亭）

野菜と果實

●●●●●野菜と衛生　英國の醫士ハードソン氏の談に、私共は餘り多量くの肉類を食ひ餘り少なく野菜を食するがために、アルカリ鹽類の缺乏を來し健康を害する人達が多くあります。總ての場合に於てあらゆる野菜を澤山に食べるのは、身體の組織に必要なる供給を充たすものでありますが、殊に痛風又はリウマチス患者にあつては肉の過食は非常に害があるので、此等の患者は清鮮なる野菜から加里鹽を取ることが最も必要であります。馬鈴薯は加里鹽を含有むことが多量であるから、好める程食ふて差支へありません。凡ての野菜の中では菠薐草は鐵分に富み最も有益であります。之に亞いで鑛分を有つて居るものは甘藍である、また肝臟の働らきが不充分なるものは韮、蒜、葱等を食するがよろしいです。これ等の野菜は普通の藥劑に優るの効能があります。すべて新鮮なる野菜のサラド類は自然の藥劑とも云ふべきものでありまして、老人のために

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、小兒のためにも最も良好ところの食品なのであります。

●●●●●●●●菠薐草の衛生上價値　菠薐草は衛生上最も價値ある野菜であると云ふ事は、西洋でも日本でも、一般に認めらるゝところであります。この草は加里鹽を最も多量に含んで居ります故緩和の性質を有て肝臓を養ひ血液を清新くならしむる効があります。それのみならず、人體の組織に有効なる鐵分を含むこと、他の野菜に勝れて居りまして、彼の鐵分を含むこと最も多量なるものとして知られたる佛蘭西豌豆（含鐵量百分中〇〇〇七四）及び扁豆（含鐵量百分中〇〇〇八三）より尚遥かに多量の鐵分を含むといふことであります。

●●●●●●林檎の衛生上價値　林檎は最も滋養分に富める菓實の一であつて其十四パーセントは全く滋養の價値があります。それは林檎の含有で居る含水炭素及び植物酸に基くものであつて、其上にも林檎は燐の多量を含むを以て腦髓を養ふの價値ありとして知られて居ります。また林檎に含んで居るところの植物酸は腎臓に大いなる刺激を與ふる効能があつて、爲に生活機能の運轉中に生ずる有毒分を容易に排泄し血液及び組織を清鮮ならしめます、且林檎は消化最も早く、そのよく成熟したものは一時間又は一時間半位で全く能く消化してしまゐます、肉類又は穀類の消化よりはズット早いのであります。

林檎を食るには食事前又は食事後に於てせずに、食事中麵麭又は肉類と共に之を食ふ方が最も利益であります、膽汁病にて惱める人などは一日又は二日間乃至その以上全く林檎ばかりを食べて一切他の食物を取らないのを以て最良の治療法としてあります。人は一週日の間林檎ばかりを食ひ何物をも食べなくとも更に害を見ないのみか、却つて斯樣な特別な食事が奇効を奏する場合が多くあるのであります。

●●●●●暖氣と菓果　冬は體内に於ける酸化燃燒の作用を盛んならしめて體温を供給せしむるの必要がありますけれども春から夏に向へば全く之と反對に身體を清涼ならしむるの必要があります、此目的に最も必要なの

は野菜と菓實でありまして、總ての菓實及び瓜類の初夏から秋にかけて累々たるは全く自然が人類のために最好の清涼劑を供給する所以であります。

野菜及び菓實は血液を鮮新ならしむるに必要缺く可からざる食品であつて、また菓實の中に含んで居る所の植物酸は小兒の蛔蟲を殺す效があります。小兒達が菓實を好はまたこれ自然の命ずるところで、徒らに之を制するのは最も不可ません。只々その新鮮くないものと成熟さぬものとを食ふことは大に禁せねばなりませぬ。

●●●●果物と蛔蟲　世間では小供達が甘いものを澤山食べるからお腹に蛔蟲が生ずると言ひますが、蛔蟲の卵子は、實は果物の皮と肉との間にありますから、果物を皮のまゝ澤山食べますと、直ぐにお腹の蟲がわきますゆゑ、果物の皮は成るべく厚く剝いて食べる樣にすることが大事です、果物の皮を剝かずに、いきなり皮のまゝ食べるのは最も野蠻な食べ方で、蛔蟲其他寄生蟲の危險もありますし、そうして果物の皮は不消化で腸胃の働きを害しますからすべての果物類は是非皮を剝いて食べることです。

おカアさんの　お話材料

アメリカ合衆國のフランクリンがあるところで、澤山の人達と宴會を食べた時、其内の一人が申しますには「私は佛蘭西人、此方は英吉利人、貴方は米國人で、各自一國を代表して居る樣なものである。各自が精一杯自分の國自慢をして祝杯を擧げ樣ではないか。」とて、抽籤を抽きました。すると、英吉利人が一番に當りましたゆゑ、英吉利人はツト立上り得意の面持で威張り反つて、酒盃を差上げ「何と！諸君!!!我が大英國は四方の國々を照らす太陽の如くであつて、地球上にある國として我が大英國の恩寵を蒙らぬところは恐らくないのである。」と言ひながら酒をグツと呑干しました。

之を見た佛蘭西人はちよツと驚いたが、よしよし高慢な英吉利人の鼻柱をへし折つて呉れんとて、つツと立上り、酒盃を差上げ「諸君！わたくしは今佛蘭西大共和國を申上げます。佛蘭西は地球上の潮を動かすところの月の如きものであつて、世界の國一つとして我が佛蘭西の風俗を眞似しないところは一つもありません。何と諸君、左樣ではありませんか。」と言ひながら酒を呑干しましたれば、皆の人達が「能く言つた!!」と手を拍つて賞めました。最後にフランクリンは靜に立ち揚り「私は御兩君と觀ろところを異にいたします。私は先づジョーヂワシントンを言はればなりませぬ。ワシントンは、太陽や月に「じつとして居れ。」と命令したジョーシュアの樣な人傑である。」と申しながら酒を呑干しました。之を聽いて居たお客達は「出かしたりや!!出かしたり!!!」と手を拍つて賞揚し、フランクリンの言葉に酬るものは誰も考へつくまい！」と騷ぎ、暫時の間「萬歲!!!」の聲で耳が聾になりそうでしたと云ひます。いさぎよい話ではありませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二葉園藝

エデンの花守

●薔薇の話

—口碑及歷史—

西洋の口碑によると、薔薇の花は最初皆、眞白のものでしたが、或時、愛の神が、多くの神々と雲の上で遊び戯れて居られた際、誤つて神酒をコボされた。それが地上の薔薇の花へ落ちかゝつてからは、いままで眞白の花が、反對に眞紅に咲き出るやうになつたと云ひます。

けれど薔薇には眞白もあれば眞紅もあり、淡紅もあれば絞りも交もありまして、其美しさは御存じの通りの富麗なものです。

日本で山櫻を花王と稱へますやうに、西洋でバラは花王とせられ、國の花と飾られ、美を意味すると信ぜられ、其紅と白との花把は『暖き心』と意味され、草把に一輪添へたのは『思ふ物を友より受けん』と傳へられ、其蕾は「處女」と意味され、滿開の一輪を二個の蕾の上に置き添へたのは『秘密』を意味されるなど、非常に愛で貴びます。また彼の國の詩人も此花を歌ひますが、未だ充分に其美を歌ひ盡した人は居らぬやうです。世人『此花こそ天の寵兒、地の飾、春の榮』と稱へますけれど、その美容と、愛らしさの人心を引きつくる力とを云ひ現はすにはまだ〱であります。尤も、花王としての資格はトーマス、ムーアに、美の粹をスコットの『湖上の美人』に歌はれて居ると申します。

單にバラと申しましても、世間ひろく愛られるのは西洋から輸入されたのであります。尤も以前から山野には單瓣白花の野薔薇があり、庚申毎に咲くと云ふ庚申バラがあり、白黄、金世界などの、支那から輸入せられた重瓣ものも少しはありましたが、今の薔薇とは比べ物にはなりませんでした。

時に明治三年、開拓使黑田清隆氏は、米人ボウマン氏を聘して、專ら園藝及農產に關することを司どらせ

同時に西洋種のバラをも輸入して、試植したのが抑の始りで、其花の艶麗なのと、芳香の馥郁なのとは、忽ちに世人の歡迎を受けて、價格も一株數百金と云ふ呼ひ聲で、南洲翁も此時に二百五十圓で奮發したのは、當時嘖々たる評判物でしたと申します。

其後開拓使が廢せられまして、同廳所有の薔薇は悉く宮内省へ引取られ、同省小堀某の手で培養されるやうになりました。當時宮内省へ出入する横山新之助氏（今のバラ新）が、不圖、右小堀氏と懇を結び、其私有に係るバラの手入を委托されたが、案外手がかゝらないで發育も速かなので、忽ちに十數種の變り花を出し小堀氏と共同して盛んにこれを培養するやうになつた。けれど花の價格の低下せんことを恐れ、培養場は秘して人に示さず、唯だ其花ばかりを賣り出しました。從つて一花幾十金と云ふ馬鹿な價格で暴利を占めて居ましたのです。ところが一日、某氏の爲めに其秘を悉く發見せられ、都下の槖駝師の知るところとなり、遂に一般の愛養するところとなりました。

斯様に廣つたから植木屋輩も、又曩日の奇利を博することが出來ませぬので、追々其培養を廢しまして、とう〳〵前記バラ新と、横濱二十八番館との外、更らに良花を持たぬやうになりました。が、其時分例の歐化熱勃興して、舞蹈用の毬花、宴會用の盛花にする爲め急に此花の需用を喚起した。けれど一般植木屋には此花がなかつたので、止を得ず外人に仰ぎ法外な價を取られて居りました。此の有様を見、自ら奮つて薔薇栽培を始めたのは、鹿鳴館に居た吉田彦次郎氏で、時の外務大臣井上氏に交渉して、外人の三分の一位ゐにして引受てもらひ、だん〳〵栽培を盛んに致しました。

次で明治二十三年には、芝公園の元金地院内の茶園を讓り受けて、一大薔薇園を開き、なほ、朝倉豐義氏が向島小梅町に長春園を同時代に開始したのであります。日本の薔薇栽培は茲に一躍して長大足の進歩を爲しまして、年々新花を出し、津々浦々、山家の庭には勿論見られるやうになり、遠く海外へまで、輸出を試みる氣勢になりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以上は此の頃、薔薇の咲くのを見て、皆さんに其の口碑や歴史の御話をした譯で、栽培法や手入は追々と申上げます。

●薔薇の種類

——金澤市　遠田君質問——

バラの變種はそれ〴〵澤山ありますが、これが素々學問上の何と云ふ種類から變化したものか分らぬ。で、ざッと名丈けでも誌上で御答をとは遠田君の仰せ、成る程左様云はれて初めて氣がつきました。これは植木屋でも誰れでもちよッと氣づいて居て惡くないことで且つは、有益なことでもありますから、家庭理科の材料迄には一班を左に掲けます。

△タカチイバラ。R.acicularis,Lindl.

△木香花（本草綱目より）、R.banksiae' R.Br. 日本產で一名をモクカウクワ。スダレイバラなど〵呼ぶ。

△カカヤンバラ。R.bractlete' Werdl.（外產）

△月季花（本草綱目）。R.indica' L. 外產で又の漢名を長春花（群芳譜）及月々紅と申し、一名をチヤウシン。シキザキイバラ（四季咲薔薇）と呼びまして、三つか五つの平滑な光澤ある小葉を持つ小灌木で、紅、白、黄などの美花を咲き、萼の筒部は平滑なものです。其長春と云ふのは四季に咲くのであるからで、栽培上改良を加へないのは、早くから渡來して居て庚申微薔と呼ばれたのです。

△寶相花（秘傳花鏡）R. sieboldi, Curt.（外國產）

△金櫻子（本草綱目）R. laenigata, Mich. 外產で蔓生灌木刺の密生した枝を持ち、葉はカウシンバラに略ぼ同じで滑です。花は白色大形で單生し、萼は刺を存して、一名をナニハウバラと呼びます。言海に曰く『花、椿に似て、夏、五瓣の白花を開く淡紅なるあり、やゑなるあり』と、

△ハイイバラ R. Lucial. Fr. et, R, Och. 一名ハマイバラと云ふ。

△闘雪紅（言海）Rmicraphylla, roxb. 葉は九乃至十五個の小葉からなる復葉で、花は通常淡紅色で、冬季咲きます。萼及び枝に刺を持つて居ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△ヤマイバラ R. moschata, Nill.

△野薔薇（本草綱目）R. multiblora, Thunb. 一名をノバラ（仙臺）ガクラ（出雲）と呼ぶ。葉は五個以上の小葉から成つて、少しく毛を持ち、花は白だが稀に紅を帶び圓錐形に開き出ます。夏開花。

△一種、十姉妹（秘傳花鏡）R. platyphylla, rap. なるものがありまして栽培いたします。

△玫瑰（秘傳花鏡）R. rugosa, Thunb. 莖は刺を密生させ葉は短毛を持ち、花は大きくて筒形の萼を有つて居る。實は茄に似て海岸に多い。故に此名があるとか花に紅白の二種あつて、北海道に多いそうです。夏花を咲き、觀賞用として栽培することもある。

△テリハノイバラ R. Wichuraiana, Lrep.

右はバラ科中のバラ屬植物を列擧したので、つまりバラの類を集めたに過ぎません。

●朝貌の牡丹咲

――大阪　萬紋生質問――

朝貌の花の蕋が、總て其生殖作用を失ひ、花瓣狀に變じたのを牡丹咲と申しますので、斯樣な變化は人々により、或は偶然に生ずることは、觀賞植物に間々あります。

併し斯のやうなのは蕋が、其作用を失つて瓣になつて居ますから、花は美しいが子は生りませぬ。で、之を繁殖するには、種子以外、即ち接木、挿木などの法によらねばならぬ。が、悲しいことには、朝貌は一年草ですから、それが出來ぬのです。

けれど動物に或る病的性狀を遺傳することがあるやうに、朝貌にも亦特種の遺傳性を有つて居るのがありまして、多年改良栽培の結果、或る朝貌の種子からは往々所謂牡丹咲を出すことがありまして、彼の『親木』と云ふのは此のことであります。

扨て此親木なるものは、主に小さい花を咲くが、それから得た種子を蒔きますと、百本生へる中、二十や三十本の牡丹咲を出します。而して其の牡丹咲は矢張種子を結ばぬから、殘りの牡丹咲でないのを親木として培養し、それから種子を採つて、來年の牡丹咲種子

とするのであります。
生え出て二三枚の本葉を出しますと、牡丹咲でないのは通常の朝貌のやうな葉ですから、違つたのは夫れと見てよいのです。また此親木から得た種子より牡丹咲を得る歩合や、如何なる花を咲くかは一定して居ませぬ。栽培法は大輪咲栽培法に等しいのです。

●花の友

▲土佐の森澤君　お尋れの害蟲は介殻蟲だらうと思はれます、次號で新驅除法を紹介しませう。彼奴には誰れも大事な花木をやられるので。

▲同君　今年お植込になつたといふ梅苗は、どれほどの大さのか、接木か、實生か、挿木かを承はらぬと答へは出來かれます。

▲土佐の下司君へ　仰せのやうに花を、見えに作るもの、競爭的に作るもの、隱して作るものなど、それはく種々ですが、何れにしても、今の野鄙な娯樂や趣味に優つて居ると思ひます。而して若しそれが我々共の唱へるやうな心持で作つて臭れるなら、なほ結構です。

注意

▲二葉園藝（花好きの人の爲質問隨意）
▲家庭通信（讀者諸君よりの通信を揭ぐ）
▲西洋料理の栞（綠亭主人擔當にて質問に應ず）
▲讀者の顧問（新家庭を作る人に取つての相談役）

●養鷄小話

經驗家の話に依ると、素人の家には十羽以內が宜いと申します。少し邸宅の周圍にでも餘地があるなら、假りに十羽程飼ひ試して御覽なさいそれに依て利益を得るは勿論、一種大なる精神的の慰樂を求むる事も出來る。其食物としては、朝夕厨下の殘物を利用し、それに少々宛の雜穀類（米は一番滋養が多いが、小麥か小米又はさらごと云て燕麥の粉の滓に糠を混じて與ふるも宜しい）を副食としてやります。さて其利益は十羽の中二羽を雄とすれば、一日平均四五顆の卵を得られる。鷄の種類は澤山あるが、卵を取るために飼ふものはレグホーン、アンダルシヤン、ミノルカ、ハンボーク、ポーランド、クキン、ブラマ、コーチン雜種などて地鷄、矮鷄、烏骨鷄は卵を溫めるによいと云ひます。

序にお話します。鷄卵を割ると其卵黃球の上に俗に目と呼ぶものがあります。あれは後日鳥の眼となるものでなく、漸々分裂して大きくなり、途に立派な鳥其物となるので、卵白卵黃などは皆此胚盤が雛となつた時の食料となるのであります。又此目のある方は輕くなつて居るから、卵を如何なる方向に割落ちても、常に此胚盤は上へ回轉します。隨て玉子が新鮮で有るかないかと云ふ事も分ります。卵は牝鷄の體溫で二十一日目には可愛らしい雛となツて生れるもので、生れた年には二十個位の卵を產み二年乃至四年の間は一年に凡百三十個から二百四十個も產み、一生涯に六七百の卵を生むものです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

偶感

〔大家庭と小家庭〕

○貴夫人を訪ねて意見の聞書きをする事や、其大仕掛の家庭内部を拜觀して世にこれを紹介する事やらで、近頃の新聞婦人雜誌記者は一日の寧日をも持たぬと云つてもよい。洵に貴夫人萬歳の時節で、擔任記者夫々の骨折も亦充分感謝の念を以てこれを見る事が出來るのである。顏の綺麗な女學生諸君がこの記事を讀んでは、「早く彼樣な地位を得て、彼樣して、此樣して……」と華やかな未來の歡樂を夢にも幻にも見て、忘れる折がないであらう。又、顏も美しからず、身分も面白からず、華族女學校へ通ふのは少し面倒な事情があると云ふやうな若い婦人は、「羨しいこと。何だつて妾は此樣な家に產れたのだらう。」と、俄かに明るく我身の不運に氣付いて、親を恨み、世の中の不公平を呪ふのもあらう。若しまた、それが小さき家庭の細君であつたら、其人が何を考へ、何を感じて此記事に目を觸れる

かと云ふ事も大抵は想像がつく。「あゝもう妾はこれでしんどまり。夫が一體意氣地がないのだもの。世の中はつまらないものよ。」と口へ出さずとも心には描かれて居るに相違ない。紹介子の筆の力や、實に恐るべきものと云はねばならぬ

○「屋敷が何千坪、威嚴しき冠木門に、應揚な玄關構へ、先づ以て御家庭の尊嚴と、夫人の高貴が思ひやらるゝ」とは、どの紹介子も筆にする常文句である。「お召使は老幼併せて幾十名、上は執事より下馬丁に至る迄、悉く夫人の手一つに支配され、下々を憐み玉ふ優しきお心根は、犬の子猫の子にも普く行渡る」とて、其次には夫人の慈悲深き人格に只管隨喜渴仰の涙を濺いで居る。それから、育兒、子女の教育、家庭教師の成蹟、牛乳を何升用ゐる、料理は何處で誂える「衣服の註文は何處、挿花の師匠は誰、謠の先生、掛り附の醫者の名、食事の時間、副食物の品數――と凡そ其邸の日々の習慣と生活法とは、些細な事でも悉く金科玉條の如くに取扱つてある。それも其筈であらう。肝腎の聞きに行

き見に行くところの紹介子は、大方年中不自由な不如意な生活をして居て、狭苦しい借家に住居して居る人ばかりである故、偶に宏大な堂々たる邸宅を見て、華美な、驕奢な大家庭の組織に目を向けるならば、田舎者が東京の盛觀に目と心を奪はれて、絶えて其内部に蟠つた暗黒の方面を看破する力を失ふやうに、只偏に其偉大と壯麗に打たれて了ふのは、全く人情として有り勝ちの事であらうと思ふ。

○私は此様な記事が社會に及ぼす悪影響云々の事に就ては、餘りに多く憂ひとするものではない。私等の目には、無意味な小説の一節を見て居る程にも映らず、從つて眞面目な感動や何かを心に深く刻み付けられるやうな恐れもないのである。只私が面白く考へられぬのは、紹介子其人の見識の點で、廣く社會に善き家庭を紹介しやうとするならば、今少し靜かに考へる餘裕と、思ひ付とがないものであらうか、と疑はれる。

○無論紹介子の筆に載る貴婦人は、其人格に於て缺けた處がないであらう。貴族的で慈善の心に富んだ處のあるのも承認が出來る。又廣い屋敷と、心地よき座敷と、莫大な收入と、數多き雇人とを持つた大家庭が、機關の如く整然として運轉して居る光景の壯なのは、誰も異論を挿むものはない。けれども私は思ふ。世に尊いと呼ばれる家庭とは、果して此種の大家庭を指して云ふのであらうか。理想的の家庭とは、單に規模の大きい貴族的の家庭を意味するのであらうか。若し紹介子の考へが全くこゝにありとするならば、私の見解は大にこれと相遠ざかつて居る。

○私が理想的とし、若くば尊しとする家庭は其質であつて、形の大きいのや外觀の美しいのを指すのでない。既に多額の月收入あり、雇人にはそれ〲定まつた部署あり、子女の教育には專門の先生あり、特に、家には樂器、書籍、美術品、一として備はらぬものとてはなく、出でゝは花々しき交際場裏の人となつて、其折々の流行の先驅者となる事も敢て難儀とするには足らぬ——斯様な家庭の女主人公に於て、何處に慘憺たる家政上の經營を見る事が出來るのであらう。惟ふ

に女主人公は一個の機械である。金子と云ひ身分と云ふ蒸氣力は、生命なき此機械をして克く整然たる運轉をなさしめるのである。斯く考へて來るならば金子と身分とには眞實の價値こそあれ、機械其物には何等の價値ありとも思はれぬ。

○世に此種の大家庭を紹介せんとするもの、若し其志にして、世の中には斯る大規模の生活をして居る人もある、と云ふ點を知らさうとするのなら、私はそれに對して異見はない。併し乍ら、これを以て苟くも世間幾多小家庭の摸範たらしめ、雛形たらしめやうと云ふ考へであるならば、それは實に甚だしい間違であらうと思ふ。

○若し世間に摸範的家庭を覓めて、それに眞價の正札を附けやうとするならば、紹介子は宜しく、去つて、小家庭の格子口に走らねばならぬ。眞に尊むべく愛すべき家庭は、高樓や朱門の中に宿らずして、却て裏町の狹苦しい日蔭の家に屢々見出されるものである。三十にも滿たぬ月收を以て、瘦世帶の經營に任じて居る

細君、常に節約して警戒して、銅貨一個と雖も粗忽には用ひず、それで居て一方には身分相當の交際もし、快樂も味ひ、書籍も讀み、旅行を企て、就中、子女の敎育の爲には我が衣を典しても敢て其犧牲たる事を辭せぬと云ふ程の覺悟を持つた細君は、洵に萬人の尊重に價すべき絕好の雛形ではあるまいか。

○私に一人、私より年嵩の姪がある。其夫は別に深い學問もなく、才能もない。現在の職業は鐵道郵便の係員で日給者と云ふ哀れな身分、外に旅費などの特別收入を合算しても、月收二十五圓の上には出ぬであらう。既に子供が三人あつて、長子と長女とは小學校へ通つて居る。私は此姪から來る手紙を讀む時には何時も可愛さに微笑むのであるが、此間受取つた手紙の内に、「妾が立てた計畫が妨げなく續いて來ましたので、坊の敎育費として到頭公債を一枚買ふ事が出來たのです。そして、其計畫と言ふのは隨分苦しい策略ですけれど、妾等にはこれより外に節儉の道がありませぬ。」とて、態々其所謂計畫なるものゝ說明を添えてある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

元來其夫には十年間官吏として勤續した經歴あり、從つて今日では毎年々金として三十圓の下賜金のある身分であるが、若し彼にして再び政府の月給者となるならば、折角の年金下賜の特典はそれと同時に効力を失つて了ふ。彼が現在日給者の位置に甘んじて、日々の勞働に服して居るのは、とりもなほさずこの大恐慌を避ける爲で、私の姪は而も此計畫の立案者であつたのである。私は無意味に只金錢を貯へると云ふ事には、全然同意する理由を見出さぬのであるが、身分が身分の彼女の窮策としては、私は坐ろに同情の心を動かさずに居られない。手酷い貧困に始終劫かされて居る中で、敢て勇氣を摧かず、希望を棄てず、人格を忘れず、かくして子供の爲に未來の教育費を貯蓄して行かうと云ふ心底には、何となく哀愁の感に打たれると同時に、又た一種崇高なる情緒にも觸れるのである。

○大家庭の庖厨に見える肥肉や鮮魚には別に何等の意味も持つて居らぬらしい。併し、細やかな家庭の女主人公が夕餐のおかずにとて買ひに行く一本の大根には實に無限の意味が籠つて居るのである。貴夫人が一個のダイヤモンドに數千金を抛つ時に感ずる心は、丁度わが女主人が大根を購ふ時の心と同じであらう。彼女が其子供の學校通ひの鞄にとて費す金子は、富みたる母親が其愛兒の爲に一頭の驢馬を買ふ金子よりも辛い物語を持つて居るであらう。此間の消息は貧に逐はれた人達でなければ味はふ事が出來ぬ。そして、其所に最も貴むべき當事者の苦心があるのではなからうか。

○富者の家庭の華美にして、其女主人公の夙に賢明なる、武人の家庭の高潔にして、而も其夫人の貞烈の心深き、紹介子は最早幾度かこれを世に示して、今はもう誰知らぬものもない。社會に最も多くの數を占めつゝある小家庭の細君は、如何にして大きな家庭の機械となるべきかに就て餘り多くを知らうとは考へない。只如何にして貧の窮境に人格を保ち、其上前途に一道の光明を認めて、一家の經營者慰藉者となり得べきかの問題には、何時も注意して耳を傾けやうと待設けて居るのである。

○高貴の家庭にのみ力を盡した從來の紹介子の筆は、最早やつまらぬ小説よりも無意味な閑文字となつて了つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家族の數

米國のカーリン、ハルステッドと云ふ人が、曾て一百人の獨身男子に對し、「結婚」に關し、四つの疑問を提出して答案を要めた事がありましたが、丁度其發表が先月のホームヂャーナルに載つて居ります。こゝに掲げたのは其内の第三問で、「家族數に就ての意見」と云ふ表題である。尤も、日本人の頭腦で考へると、家族數と云へば、無論祖父母、從兄弟、父母などの連中が加へられて居るやうに思はれますが、彼方では必ずしも左樣でない。すなはち新夫婦から見て、其間に出來る子供を指したのであります。

一　腕次第

大學教授某氏曰く、——家族數の問題は一に兩親の腕次第に依ると云はなければならぬ。即ち、子供に最高等の教育、可能きならば、兩親自身よりも更に高き教育を受けさせる丈の能力が頭腦にあるや否やに依て別れる問題である。兎に角、餘り澤山な小供を持つ事は好ましい話でない。一人々々に特別の教育をする上に於て、往々料らぬ障害を來すもの。未熟な中途半の教育よりない小供が一ダースあるよりは、二人か三人の小供を獨立の市民として、充分に堪能に教育した方がいくら優勝であるやら知れぬ。

二　四人が理想的の家族數

矢張大學教授某氏の答である——當代の米國では、人の社會的地位が高くなればなる程家族が少なく、貧乏な家庭程其家族數が多くなると云ふ割合らしい。其の現象は全く反對でなければならぬ。但し予一個の考へとしては、四人と云ふ數が最も理想的であらう。

三　事情に依る

又他の教授——萬事は事情の如何に依つて決定するだらう。若し小供を持たぬ事が吾人にとつて一つの罪惡であるならば、小供を持つと云ふ事も慥に同樣の罪惡でなければならぬ。

四　問題は妻

或人——問題は妻の一身に係る。只、予の一家言として云ふならば、四人の小供が予の理想の家族數である。

五　大家族

經世家曰く——私の考へでは、第一に小供を持てる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其家族が、充分に幸福でなければならぬ。第二に、其數は大なるを要す。但しそれに伴ふ經濟と犧牲の精神とは無論必要である。斯くして、其期する處は、兩親と小供とが互に性質を練磨してより、善く圓滿に發達せしめるにある。

凡そ世の大なる幸福と云ふものは、人をして幸福を感せしめる所にあるので、從つて、大なる家族は又直に幸福の大なるものと云ふ事が出來る。

六　夫婦の義務

或人曰く——大抵の事は忍んで滿足せねばならぬ。四人以上の子供を養ふ事は、これ夫婦者當然の義務である。

七　三人から六人迄

又或人——三人から六人迄、これ位が丁度格好な家族數であらうと私は思ふ。そして、善き程に幸福を持續して行く事も出來るであらう。

八　自然律より見たる斷案

思索家の一人がなせる說に曰く——吾等を圍繞する植物と動物とを觀察して、吾等も亦一個の自然律——自然律はやがて神の法律である——の發展たる事に結論せねばならぬ。自然律とは何を意味するかと云へば、とりもなほさず生々繁殖の原理を指す。今假りに一人の男と女とが、二十一歲を時期として相婚し、定つて二人宛の子供を產むものとして計算し玉へ。無論其子は生長して、相婚し、同じく二人の子供を產出すであらう。けれども、世界の人口には何等の增減もない。それは只祖父母の空席を滿たす斗りで。統計家の傳へる所に依ると、世界の產兒で、其半分以上は婚期に達せずに死ぬるとある。斯くて、世界人口の減退を防ぐの策として、一個の夫婦が四人の子供を產んで養ふと云ふ必要が起つて來はすまいか。

但し、此割合は只減退を防ぐと云ふ斗りで、固より積極的の繁榮を期待する事は出來ぬ。それには、吾等一個の夫婦者に於て、少なくも五人の子供は產む丈の責任を、神に對し、人道に對して負擔するものと論斷せねばならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

九 『母たる事』は婦人の天職

或人曰く――人口減滅は現時代に於て左程不思議とするに足らぬ。亞米利加の統計表を見ると、他の各國よりは著しい割合で、誕生數が減退して居る。都會の地は特に然りとなす。これ罪惡の最も甚しきものと云はねばならぬ。

抑も『母たる事』は地上に於ける婦人の一大天職である。然るに不自然なる社會の要求は、妙齢の婦女子を驅つて、反對の邪道に逐入れて居る。小なる家庭は人口減退の浮標であつた。小なる家庭は世界人口の衰退を自告する看板であつた。

吁々、此小なる罪惡の家庭、果して誰が產み出したのである。

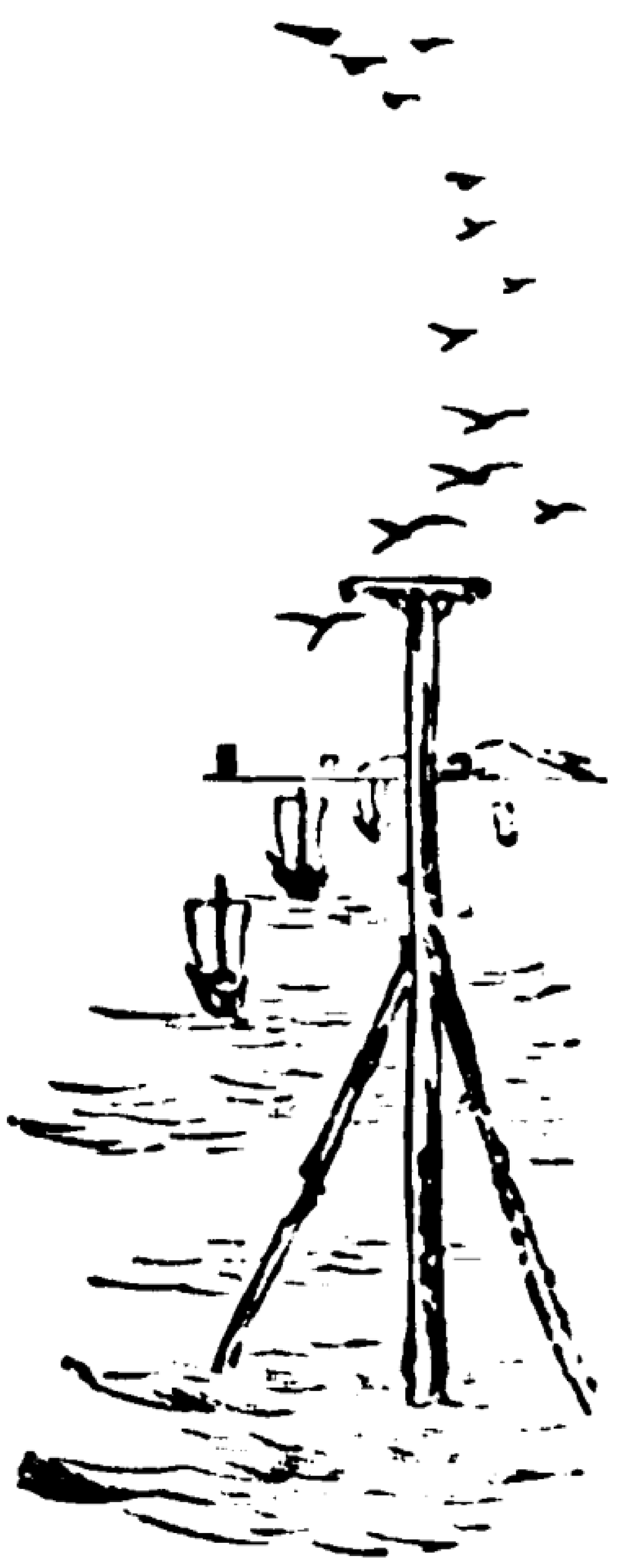
十 御馳走の貯蓄

さる好人物の語るらく――『子供を育てる事は、丁度冬季食べる御馳走を貯へて置くやうなものですよ、貴郎。澤山貯へが出來れば出來るほど、樂みもまた次第に增して來るのよ。』と云ふ私の戀人の話を聞いた時は、全く私は何處かの祖母さんが饒舌て居るのかと思つたねえ。

答案の結果

上に揭げたのは僅に其十分の一である。今總答案中百通の結果を調べると、あらまし次のやうな數字となる。

○三十六通――子供四人と限れるもの。
○三十通――妻の健康如何に因るとなすもの。
○十五通――子供二人と限れるもの。
○十二通――家族は多きを尚ぶと云ふもの。
○七通――數にあらず、性質の如何にありと云ふもの。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

筆ついで　浩山

●舊式道德の犧牲

村夫子と呼ばれたる方より、一身上の重大事件に關して、二回迄相談を受けた。其要領を左に掲げる。

一、私は恰も「眞人の自由」に於ける「俊三」の如き境遇にあるものです。

二、然し、私には俊三丈の人格も智識もありません。

三、そして、又「松野翠」の如き、眞の戀人があつてゞはなく、又「登喜子」の如きも勿論ないのです。

四、私の父が私の養家から曾て金錢上の世話を受けたので、其犧牲として廿歳の時（今は廿五　遂に廿七歳の所謂御家付の娘と結婚をさせられました。

五、私は只愛といふものでなく、わけもなく年老ひし父の命令に從ひ父の心を安じ奉らうとした爲めの結果であつたのです。

六、追ひ〳〵人情を解して參り、又一方に御家付の娘の高慢が甚しくなりますに從つて、更に〳〵なかつた愛は、一層ゼロになるのみならず、寧ろ此家に居ります事が、全然嫌になつたので御座います。

七、思ふ存分を望みますのではありませぬが、一寸とした戰勝祝賀會といふやうなものにも、つい無理に引出されてしまふといふ風で、些の自由がありませんのです。

八、然し、私が如何なる理由の下にも此家を出たと聞かば、殆んと狂せんばかりの父が居るのであります。

九、そこで、私は自分の實情を父に打あけて、離縁して貰はうと考へましたが、如何とも父は承知しませぬ、それ故所詮道を踏んで出る事は叶ひませんから、今尚考慮中であるのです。

舊式道德の弊害と金錢上のわづらひとは何處へ手足を擴げて居る。以上に對する記者の所感は、曾て二月の本欄で『義理』と題して香心生の爲めに書いた一文にて、略ぼ云ふべき事は盡きて居ると思ふ。村夫子生の境遇には誰とて一掬の淚なきものはなからう。如何程義理と云ふものが道德上に重きをなす鐵鎖であらうとも、それが爲に精神のある、意思のある生きた人間を一人犧牲にするとは、人身賣買のそれにも似て、非文明の極と云はねばならぬ。最後に、『それ程父を案じ患はせても、此の愛のない結婚から離れるといふ事は、微塵も差支なきや否や。』との問題に對し、記者は正理の上から見て差支へなしと答へたい。只事の始まりが舊式道德の中から起つてあるにも係らず、結局を道德の新精神に照らして解決しやうと云ふのであるから、從つて事が面倒になり、多少の穩かを缺く事丈は無論である。併し不正の行ひではない。君が若し突飛な熱烈な情火を持つた革命家であるなら、直に劍を提げて惡魔と戰ふもよからう。又、多少沈靜

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、經世的の才能に富んで居る人であるなら、巧みに其父を說き、巧に友の力も借り、巧に親近者の心をも納得させて、平和の間に、この大暗黑を排除して了ふのも亦宜しからう。此邊は萬事君が手心にありと知り玉へ。

●小說『娛色の絲』

爲永春水の後を承けて、同じ系統の小說を書いたのが松亭金水であつた。一日此人の作『娛色の絲』を讀む。其中に左の句あり。

「まあよく考へて見な。私と斯う云ふ譯は、ほんの私の婬奔事だあ。それで、親の持たせる聟を嫌つたと言つちやあ、人間の皮は被つても心は畜生と云ふものだ。特に今も云ふ通り親も一通りでなく、いろ〳〵義理もあつて見りやあ、なほの事だ。」

これは主人公柳糸と云ふ金滿家の若旦那が、女主人公(情人)との戀を斷つべく餘義なくされ、船宿に密會して倫理學の講釋をする處である。

『婿を嫌ふは畜生』とは當時の思想を代表して居る。誤れるも甚し。親は神でない故娘の心の底迄見破る力はない筈。これ儒敎主義——親孝行主義がもたらした弊毒で、これが爲には隨分多くの若者が其愛の迫害を受けたのである。

併し柳糸が淫奔事と自ら名乘つたのはよかつた。實に淫奔事である。世間の色戀とは主に肉慾の關係を指すので、精神上の愛着を云ふのではない。此樣な危急の場合に臨んで、戀人に倫理學の講釋をせねばならぬと云ふのも、畢竟は其賤しき淫奔事の報ひであつた。若し吾等が戀をするならば、飽く迄も肉慾に打勝ち、かくて、其意志を遂行するの權利を保持せねばならぬ。

●●●●●●●

▲新聞三面記事評釋　この表題で次號から堺さんが本誌に每號執筆なさいます。

▲土佐の健雄君　君は何と云ふ可愛い事を云ふ人でせう。家庭雜誌は間違つて古本屋へ賣る、海軍兵には合格する。每日泣いて暮して居る……君の綺棄書ば、私に君のおカアさんのやうな心を起させましたよ。

▲神奈川の房子さん　次號にて答へませう。

▲原稿紛失　廿九日、本誌に載せるべかりし原稿十頁分斗り、活版屋の手に這入らず、途中で紛失しました。記者はいひどく〳〵がつかりしましたれえ。殊に徹夜などを致して大騷ぎをしましたが、其爲に一日二日發行が遲れました。そして編輯も行屆かぬ所があります。次號から洩合せを致す覺悟。

▲新刊圖書の紹介＝平民社の『革命婦人』平易で面白い。日本婦人が欠けた性格の一部を補ふ點に於き參考書です。——野[illegible]社から出た『母と主婦』家庭叢書の第一編で、著[illegible]氏が[illegible]を集められたもの。(十八錢)——内外出版協[illegible]路傍の富と云ふ本を譯したもの、成功宗の[illegible]うです。(三十錢)

隆文館新刊家庭書

井上善兵衛先生
嘉悦孝子先生 合著

新刊

割烹新書

上巻

（下巻近刊）

和漢洋の料理法を大成したる者本書の外になし如何なる家庭にも一本を要す

總クロース製 本金文字入頰 美裝
定價金八十錢
小包料金十錢

上巻要目

總論

割烹の精神　割烹と衛生

臺所の構造　割烹と經濟

割烹の時及び器具の清潔

食品及び器具

食品の撰擇　植物性食品　動物性食品　食品鑑別法　着色料の注意

調味食品　食鹽　醬油　味噌　酢　砂糖　味淋　鰹節　昆布　乾瓢　椎茸

煮出し類　鰹節煮出しの製法　昆布及び乾瓢煮出しの製法　椎茸煮出しの製法　煮切りの製法　灰汁引き砂糖の製法　灰汁引き製鹽の製法

食品の貯藏　諸菜貯藏法　菌類貯藏法　果實類貯藏法

器具に對する注意　木器割烹器具の種類　金屬器　陶磁器　硝子器

庖丁法及び食品使用法

食品の切り方　鳥類の切り方　魚類の切り方　貝類・軟體類・甲殻類の切り方　野菜の切り方

食品使用法　鳥類　魚類　貝類・軟體類・甲殻類　豆類　穀類　根菜類　葉莖類　及び瓜茄類　海藻類　菌類　香辛料類

家庭料理

春の部　汁・吸ひ物類　膾・刺し身類　韲へ物類　浸し物類　煮物類　蒸し物類　燒き物類　揚げ物類　田樂類

夏の部（仝上）　秋の部（仝上）

冬の部（仝上）

●棚橋絢子先生
嘉悦孝子先生 共著

新案日用家事讀本

上下二卷定價各金六十錢郵税揃十錢

●小兒科醫小澤鹿十郎先生著

小兒のそだて方

（再版）全一冊定價金三十五錢郵税金四錢

●成女學校料理割烹部編纂節用

家庭暦

（再版）全一冊定價金三十五錢郵税金六錢

發兌元　東京京橋尾張町一丁目（電話新橋二五八六番）　合資會社 隆文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

平民社同人編

革命婦人

價十二錢（郵税不要）

吾人は敢て此の小册子を温良貞淑なる日本婦人の膝下に供す（五月十三日發賣）

▲革命婦人目次

第一章　プレシコウスキー（肖像入）
（一）活ける革命史　（二）革命運動起因
（三）『人民の中に行け』　（四）一千餘人の大捕縛
（五）良人を棄てゝ革命運動に加はる
（六）西比利亞の十餘年　（七）革命社會黨の創立
（八）『革命の祖母』萬歳

第二章　ルイス、ミツシエル（肖像入）
（一）小學教師より革命黨員となる
（二）『我を死刑に處せよ』　（三）善良なるルイズ

第三章　ウエラ、フイグネル、其他
（一）婦娟花の如き少女（肖像入）
（二）西比利亞獄中の烈婦
（三）カラ女囚の飢餓同盟

發行所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　電（本）三二一六二

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる

▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尚現社會を忘るゝことなし

▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す

▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子教育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週月曜

定價一部三錢　三ケ月卅七錢　半年七十二錢　全國無郵税

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず

▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず

▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり

▲夫人令孃女教師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

發行所　東京市牛込區東五軒町四一（電話番町千三百六番）　婦女[illegible]

飯倉四ッ辻　飯倉支店　電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目　赤坂支店　電話新橋二〇六八番
四谷大通り　四谷支店　電話番町五一〇番
牛込神樂坂　神樂坂支店　電話番町六三〇番
本郷一丁目角　本郷支店　電話下谷七二番
神田須田町　須田町支店　電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り

帝國貯蓄銀行

（電話　新橋）八一六番　二八〇八番

兩國米澤町　米澤町支店　電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通　吾妻橋支店　電話下谷七三番
南品川一丁目　品川支店　電話新橋一一三九番
横濱吉田町　横濱支店　電話横濱一三〇四番
日本橋坂本町　代理店　田中銀行　電話浪花二四〇番

外科皮膚病

梅毒　痔瘻　外科的婦人科泌尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際出雲橋　加藤病院

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸　毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

東洋內科醫院

電話本局八八八番　一三八五番

院長　醫學士　高田畊安

診察　毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

南湖院

副院長　醫學得業士　林止

診察　院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

高田病院施診所

主任　醫學士　松田三彌

診察　毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●社告

今回由分社は移轉しました。今後の御註文其他の御通信すべて左の所へ御郵送を願ひます。

東京市芝區新堀町三十番地

家庭雜誌發行所　**由分社**

由分社取次書籍目錄

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

家庭の新風味

堺枯川著　全六冊合本　定價壹圓　郵税八錢

▲第一冊家庭の組織　▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學　▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂　▲第六冊家庭の教育

家庭夜話

堺枯川編輯　全三冊合本　定價壹圓　郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

小說　火の柱

木下尚江著　價三十五錢　郵税六錢

妾の半生涯

福田（舊姓景山）英子著　定價三十五錢　郵税六錢

青年と生存競爭

（本書に限り定價の二割引）

安藤兎千

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顏紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢 廿二日分(常備用)金壹圓 十日分金五拾錢 六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢

本舖 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會

名譽銀牌受領

發賣元

東京

小林富次郎

粉製

赤罐入

發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

發兌元

大阪

小林支店